

温泉街における水辺空間の空間構成と水辺建築物との関係性

THE SPATIAL COMPOSITION OF WATERSIDE SPACES IN HOT SPRING AREAS AND THEIR RELATIONSHIP WITH WATERSIDE ARCHITECTURE

松本 卓也^{*1}, 井上 亮^{*2}

Takuya MATSUMOTO and Ryo INOUE

This study clarified the relationship between the development and utilization of waterside spaces in hot spring areas and waterside architecture from the perspective of spatial composition.

1. Depending on the two types of spatial composition, there were hot spring areas that were developed linearly along rivers and those that were developed in a scattered manner.
2. With changes in travel patterns, the use of waterside architecture has shifted toward configurations that accommodate outdoor activities.
3. Recently built waterside restaurants can be categorized by the seating-waterside relationship, featuring designs mindful of their connection to the river.

Keywords : Hot Spring Area, Waterside Space, Spatial Composition, Waterside Architecture, Hot Spring Experience Facility

温泉街, 水辺空間, 空間構成, 水辺建築物, 温泉体験施設

1. はじめに

1.1 研究背景

近年、温泉街では水辺空間を中心としたまちづくりが注目されている。従来の温泉街は、大型観光バス等による団体旅行を主な旅行形態として発展してきた。このような観光スタイルのもとでは、宿泊施設内で食事・娯楽・宿泊のすべてを完結させる滞在が主流であり、それに伴って旅館の大型化が進められてきた。しかし、近年ではライフスタイルの多様化や交通インフラの整備、SNSを通じた情報共有の普及などを背景に、個人旅行や家族による少人数の旅行、さらには日帰り旅行の増加といった、より自由度の高い観光スタイルが広がっている。これに伴い、屋外空間を活用した散策や食べ歩きなど、まち全体を楽しむ旅行形態への転換が進んでいる。

こうした観光ニーズの変化に対応するかたちで、各地の温泉街では屋外公共空間の整備が進められており、なかでも河川沿いの屋外公共空間である水辺空間の活用が活発になっている。水辺空間においては、遊歩道の整備や足湯の設置、ベンチや広場といった滞留拠点の創出が積極的に行われ、観光客が歩いて楽しめる工夫が随所にみられる。さらに、この動きに呼応するかたちで、河川沿いの道路もしくは河川に隣接している建築物である水辺建築物においても水辺空間との関係性を意識した計画が展開されている。河川沿いに位置する水辺建築物のなかの飲食店（以下、水辺飲食店）では、川面を望む大きな開口部の設置やテラス席の整備、さらには橋上を仮設的に活用した客席の設置など、水辺と視覚的・体験的につながる空間づくりが進められてい

る。これにより、温泉街において屋外・屋内の双方から水辺との関係性が強化され、観光客にとってまち全体の魅力を高める動きが加速している。

このように、水辺空間と水辺建築物との関係性は、温泉街における魅力の創出や観光地としての持続的発展において、重要な要素であるといえる。

1.2 研究の位置づけ及び目的

温泉街のまちづくりに関する研究として、山田ら¹⁾は、日本国内の当時約2,700ヵ所存在した温泉地について数値的な基準²⁾や文献から全国105ヵ所の温泉地を温泉街として選定し、地理的条件・形成過程に関して温泉街の分類を行い、それらの傾向から地形ごとの地域特性を分析している。温泉街の景観に関する研究としては、津田ら²⁾が伝統的な温泉地についての景観に関する取り組みについて分析している。いずれの研究においても全国の温泉街を対象として、比較による分析を行っているが、空間構成についてはほとんど触れられていない。温泉街の歴史研究としては、松田ら³⁾や中村⁴⁾が各温泉街に関する空間構成について明らかにしているが、いずれも対象としている温泉街の年代が昭和時代までのものであることから、現在と比べて機能や空間構成が異なっている。また、観光学の分野からは、笠間ら⁵⁾が、国内でも特に評価が高いとされる温泉街観光地を対象として、屋外公共空間の現状や観光客の観光行動の特徴について分析しており、温泉街の屋外公共空間について明らかにしているが、各温泉街の詳細な空間構成の把握には至っておらず、水辺空間に関してはほとんど触

^{*1} 島根大学大学院自然科学研究科環境システム科学専攻
建築デザイン学コース 博士前期課程

^{*2} 島根大学学術研究院環境システム科学系
建築デザイン学コース 助教・博士（工学）

Architectural Design Course, Major in Science of Environmental Systems,
Graduate School of Natural Science and Technology, Shimane Univ.
Assist. Prof., Architectural Design Course, Institute of Environmental
Systems Science, Academic Assembly, Shimane University, Dr.Eng.

れられていない。個別事例の研究としては、西川ら⁶⁾の長門湯本温泉に関する報告があり、地形特性が類似の温泉街との建築物の用途の比較から空間構成などを明らかにしている。

以上のように、温泉街の屋外公共空間や水辺空間に着目した研究は少なく、温泉街の水辺空間と水辺建築物の関係性に注目したものはみられない。そこで本研究では、水辺空間を有する温泉街の屋外公共空間における整備・利活用実態⁷⁾について整理するとともに、水辺空間の空間構成や水辺建築物における用途の変遷⁸⁾、水辺飲食店における水辺との関係性⁹⁾について調査することで、温泉街における水辺空間の空間構成と水辺建築物との関係性について明らかにし、水辺空間を中心とした温泉街の活性化に向けた一助とすることを目的とする。

1.3 研究対象

山田ら¹⁾が選定した全国 105 カ所の温泉街のうち、銀山温泉や城崎温泉、再整備で知られる長門湯本温泉に代表されるように、河川に橋を架けることによって街としての回遊性が生まれやすく、水辺空間における関係性が強く表れる温泉街の形式に着目した。全国 105 カ所の温泉街のうち、河川が温泉街の中心を流れ、その両岸に建築物が建ち並ぶ 20 カ所の温泉街を抽出し対象とした(表 1)。とりわけ水辺空間の屋外・屋内の双方において活用が活発な温泉街として、水辺空間の整備やイベントが豊富かつ、客席から河川が見渡せる水辺飲食店を有する 8 カ所の温泉街を代表事例として詳細に取り上げる。

1.4 研究方法

まず 20 カ所の温泉街について、2023 年 8 月～11 月に各温泉街の自治体と観光協会や旅館組合などの活動組織にアンケート調査を実施した^{注 2)}。なお、アンケート調査の内容は、主に温泉街の水辺空間に関する基本情報(整備内容・費用、イベント等の利活用、管理主体、ワークショップの有無など)である。

代表事例とする 8 カ所の温泉街の水辺建築物について、水辺空間の空間構成より 2 タイプに類型化を行う。ゼンリン住宅地図^{注 3)}、現地調査およびヒアリング調査(2023 年 7 月～2025 年 5 月)^{注 4)}から、水辺建築物における用途の変遷や水辺空間における整備の実態、なら



写真 1 水辺空間の空間構成要素

※筆者撮影(①②2023 年 9 月、③④2023 年 7 月、⑤2025 年 5 月、⑥2024 年 10 月)。

びに温泉体験施設^{注 5)}と水辺建築物との配置関係について検討し、各類型における水辺空間の空間構成の特徴について考察することで、温泉街の屋外における水辺空間と水辺建築物との関係について明らかにする。さらに、近年新築または改修された、客席から河川が望める水辺飲食店を対象として、客席部分の平面プランを作成することで、河川を活用した平面計画の特徴を整理する。それらの特徴をもとに、客席と水辺の関係性による類型化を行い、類型ごとの水辺飲食店における工夫について考察し、温泉街の屋内における水辺空間と水辺建築物の関係について明らかにする。

2. 20 カ所の温泉街の屋外公共空間(表 1)

研究対象とする 20 カ所の温泉街では、河川沿いに足湯や広場、遊歩道などを整備し、水辺空間を滞留拠点として活用することで、地域の魅力向上や観光客の回遊促進を図っている。河川という自然資源を活かした屋外公共空間の整備・利活用は、温泉街ごとの独自性や情緒の形成に寄与し、地域活性化にもつながる重要な要素である。そこで本章では、20 カ所の温泉街の水辺空間における空間構成要素、さら

表 1 20 カ所の温泉街の概要

No.	温泉街名	都道府県	水辺空間における整備内容	水辺空間におけるイベント内容	管理組織	整備費用	WS
1	銀山温泉	山形県	足湯、手湯、テラス、公園、	ライトアップ、祭り、演奏会	民間	補助金	×
2	温海温泉	山形県	足湯、飲泉所、ウッドデッキ、テラス	ライトアップ、祭り	自治体	補助金、自主財源	◎
3	石和温泉	山梨県	足湯、ウッドデッキ、公園、広場	ライトアップ、フリーマーケット	不明	補助金	×
4	城崎温泉	兵庫県	足湯、飲泉所、東屋、広場、遊歩道	祭り、花火、ライトアップ、灯籠流し	自治体+民間	補助金、自主財源	○
5	玉造温泉	島根県	足湯、手湯、東屋、ウッドデッキ、広場、遊歩道	朝市、祭り、ライトアップ、舞台発表	自治体	補助金、自主財源	△
6	長門湯本温泉	山口県	足湯、手湯、東屋、川床、公園、広場、遊歩道、ステージ	オープンカフェ、祭り、花火、ライトアップ、灯籠流し	民間	補助金	○
7	下呂温泉	岐阜県	足湯、飲泉所、東屋、公園、遊歩道、ステージ	祭り、花火、夜市、ライトアップ	自治体	補助金、自主財源	○
8	湯原温泉	岡山県	足湯、手湯、露天風呂、東屋、公園、広場、遊歩道	朝市、オープンカフェ、祭り、花火、舞台発表	自治体	補助金、自主財源	×
9	杖立温泉	熊本県	足湯、東屋、遊歩道	祭り、オープンカフェ	不明	不明	×
10	三朝温泉	鳥取県	足湯、露天風呂、東屋、公園、遊歩道	祭り、花火、ライトアップ、川魚つかみ、パレード	自治体+民間	不明	×
11	定山溪温泉	北海道	足湯、公園、広場、遊歩道	ライトアップ	不明	自主財源	○
12	飯坂温泉	福島県	足湯、公園	特になし	不明	不明	×
13	水上温泉	群馬県	足湯、東屋、公園	花火	不明	補助金、自主財源	◎
14	湯河原温泉	神奈川県	公園	祭り	自治体	補助金	○
15	修善寺温泉	静岡県	足湯、東屋、テラス、公園、遊歩道	祭り、花火、ライトアップ、ライブ	自治体	補助金	◎
16	湯村温泉	兵庫県	足湯、東屋、広場、遊歩道	祭り、川遊び、ライトアップ	民間	補助金、自主財源	○
17	有馬温泉	兵庫県	公園、広場	祭り、舞台発表、ライトアップ	自治体	補助金	○
18	壱野温泉	佐賀県	東屋、公園、遊歩道	ライトアップ	自治体	補助金	×
19	湯平温泉	大分県	遊歩道	特になし	不明	不明	不明
20	市比野温泉	鹿児島県	足湯、東屋、公園、遊歩道	祭り、花火	自治体	不明	◎

※太字の 8 カ所の温泉街を代表事例とする。

※WS は住民参加のワークショップであり、◎は毎年 1 回以上実施、○は令和元年度以降に 1 回以上実施、△は過去 1 回以上実施、×は実施なしを示す。

にはイベント等の利活用実態を整理し、水辺空間が果たす役割について明らかにする。

2.1 水辺空間を有する温泉街の概要

温泉街の水辺空間の整備には、温泉を体験できる足湯（写真 1-①）や手湯、飲泉所、露天風呂（写真 1-②）のほか、主に散策や食べ歩きの際に休憩場所として活用されている東屋やベンチ、ウッドデッキ（写真 1-③）、テラスなどが含まれる。特に足湯は、研究対象とする温泉街の 80%（16/20 ヲ所）に整備されており、温泉街特有の資源を活用し、短時間の滞在や回遊の中継地点としての役割を果たしている。同様に、手湯や飲泉所、露天風呂といった温泉資源を活用した整備も各地でみられることから、観光客の滞留を生み出す仕掛けとして有効に機能していると考えられる。また、親水性を高める遊歩道（写真 1-④）を設けている温泉街も多く、No. 6-長門湯本温泉では、遊歩道内に川床（写真 1-⑤）を整備するなど水辺空間の回遊性促進に寄与している。公園や広場（写真 1-⑥）についても河川沿いに整備されているケースが多く、河川の眺望を活かしてイベントが開催されるなど、多目的な活用がみられる。

温泉街の水辺空間におけるイベントでは、灯籠流し（写真 2-①）や魚つかみなど河川を直接利用するイベントのほか、ライトアップや花火などの景観要素として河川を取り入れるもの、朝市や祭り（写真 2-②）などの水辺空間を滞留拠点として活用するイベントなど多様な活用がみられる。

水辺空間の整備費用に関しては、国や県からの補助金^{注6)}を活用している温泉街が大半を占めている。また、整備後の水辺空間の管理は基本的に河川の管理者である自治体が担っているが、自治体と民間が共同で管理をするケースや、民間組織が主体となり管理をするケースもあり、水辺空間の活用に関しては組織間の連携が重要となっている。

住民を交えたワークショップは多くの温泉街で実施されており、自治体や観光協会、旅館・飲食店経営者などが連携し、情報共有や地域住民の意見を温泉街の整備に反映するような仕組みが整いつつある。一部の温泉街では、学識経験者を招き、官民連携や街歩きの促進など温泉街のまちづくり全体を見据えた議論も行われている。

2.2 水辺空間の利活用実態

温泉街における水辺空間では、花火大会やライトアップ、地域の祭り、朝市など季節や地域性を活かした多種多様なイベントが開催されている。こうしたイベントは、水辺空間が持つ開放的な景観や高い親水性といった空間の特徴を活かして行われており、観光客の滞留を促し、地域の賑わいを創出している。

近年の温泉街では、河川沿いに足湯やテラス、ウッドデッキ、遊歩道、広場などが整備された水辺空間がイベント開催の基盤として活用されている。例えば、ベンチやウッドデッキ、広場が整備された場所の周辺で市場や祭りなどが開催され、整備によって滞留性や快適性が高まったことで、イベント開催時も利用者の回遊や滞在時間の延長がみられる。また、地元産品の販売や飲食を通して観光客だけでなく地域住民の交流も生まれている。

具体的な事例として、No. 5-玉造温泉では河川区域内の遊歩道に足湯を併設するウッドデッキが整備されており、温泉街の祭りを開催する際には片方にステージを設け、反対側に観客席を設置することで河川を活用したイベントスペースとなっている。また、河川沿いにある空き地を活用して屋台なども出店している。整備前には限定的であっ



①灯籠流し（No. 4-城崎温泉） ②タマステージ（No. 5-玉造温泉）

写真 2 水辺空間のイベントによる利活用

※①②は各観光協会の HP より。

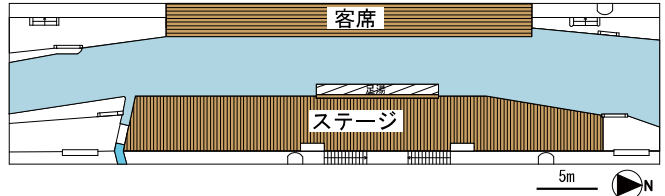


図 1 水辺空間の平面図（No. 5-玉造温泉）

類型	①河川－道路隣接型			②河川－建築物隣接型		
	河川区域	道路	水辺建築物	河川区域	水辺建築物	道路
模式図						

図 2 水辺空間の空間構成による類型化

た水辺空間の利用が、空間の安全性やアクセス性の向上とともに活用の幅が広がったことで、地域住民や観光客が自然と集まる場へと変化している。これは、整備によって水辺空間が「通過する空間」から「滞在し、楽しむ空間」へと機能が転換された好例といえる（写真 2-②、図 1）。

このように、水辺空間の整備とイベントの開催は相互に関連しており、整備がイベントの多様性や質を高めるとともに、イベントが水辺空間の利用価値を高めている。今後の温泉街における水辺空間の活用において、イベントの開催を見据えた整備を行うハード面に加え、地域の文化や住民参加を前提としたソフト面との連動性が求められる。

3. 水辺空間と水辺建築物との関係性

温泉街において、水辺空間と水辺建築物との関係性は地域の魅力や観光客の動線、滞留拠点の形成に大きく影響を及ぼしている。そこで河川と水辺建築物との配置関係に着目し、研究対象とする 20 ヲ所の温泉街に位置する水辺建築物について、水辺空間の空間構成から、河川区域と水辺建築物が道路を挟んで接続する「①河川－道路隣接型」と、直接接続する「②河川－建築物隣接型」の 2 タイプに類型化を行った（図 2）。20 ヲ所の中から水辺空間の屋外・屋内の双方において活用が活発な温泉街 8 ヲ所について、水辺空間の屋外整備の特徴や水辺建築物の用途の変遷、温泉体験施設^{注5)}と水辺建築物との配置関係に着目し、屋外における水辺空間と水辺建築物の相互作用について調査することで、水辺空間と水辺建築物との関係について明らかにする。

3.1 水辺空間の屋外整備の特徴（図 3）

水辺空間の屋外整備について、水辺建築物の特徴から温泉街の全体的な整備の特徴についてまとめる。

①河川－道路隣接型：

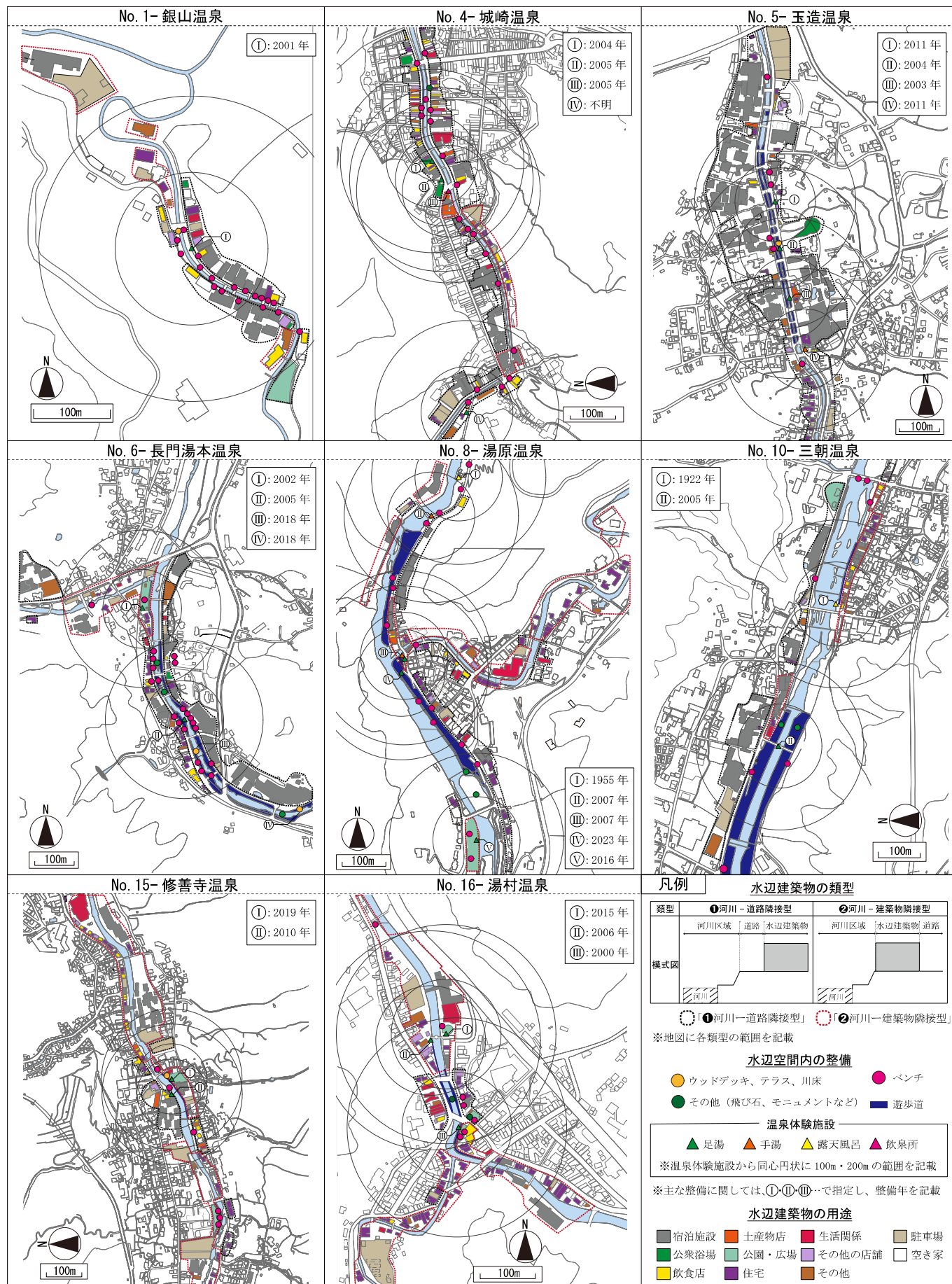


図3 代表的な8カ所の温泉街における水辺空間の屋外整備

この類型に属する水辺建築物が多くを占める温泉街（No. 1、4、5、6）では、主に建築物のファサード側に河川が流れているため、屋外に出ている観光客の主な行動範囲は、河川と水辺建築物に挟まれた河川沿いの道路となる。現在では、河川沿いには宿泊施設や飲食店等の店舗が多く残存あるいは新設されており、屋外公共空間等の整備もこのエリアを中心に行われ、温泉街の街並みは比較的狭い範囲に集中して形成されている。そのため、特に飲食店や旅館の用途の水辺建築物では、外壁面の前面にベンチ等の客席を設置することで、河川に対して開く工夫がされている。また、歩道空間にはNo. 1-銀山温泉やNo. 6-長門湯本温泉のようにウッドデッキなどが整備され（写真 3-①）、No. 5-玉造温泉では、遊歩道が温泉街内の河川全域に整備されるなど、河川に沿って線的に整備が進められている。

②河川－建築物隣接型：

この類型に属する水辺建築物が多くを占める温泉街（No. 15、16）では、主に建築物の裏側を河川が流れているため、「①河川－道路隣接型」と比較すると、河川に対して開けた空間が少ない。そのため、



①和楽足湯（No. 1-銀山温泉）



②ふれ愛の湯（No. 16-湯村温泉）

写真 3 類型別の河川沿い整備

※筆者撮影（①2025年5月、②2024年10月）。

河川沿いにある公園・広場や空き地のように河川に対して開けた空間を活かした滞留拠点の創出を行い、観光客を水辺空間へと引き寄せるような整備が多くみられる。No. 16-湯村温泉では、河川に面した公園や遊歩道内に足湯を整備するなど（写真 3-②）、公園・広場、遊歩道といった河川に対して開かれた空間を活用した滞留拠点が多くみられ、河川に沿って点的に整備が進められている。

3.2 水辺建築物における用途の変遷と温泉体験施設との関係性

温泉体験施設が水辺建築物の用途や配置に与える影響について明

表 2 温泉体験施設と水辺建築物との配置関係における用途の変遷^{注7)}

類型	温泉体験施設からの距離	温泉街名	水辺建築物の用途（％）											
			温泉関連施設					生活関連施設						
			宿泊施設	飲食店	公園・広場	土産物店	公衆浴場	住宅	生活関係	その他の店舗	その他	駐車場		
①河川－道路隣接型	0～100m	No. 1-銀山（'02→'23）	85.7(12)→90.0(9)	0(0)→60.0(3)	0→0	該当なし	66.7(2)→50.0(1)	66.7(4)→50.0(1)	100(1)→100(2)	50.0(2)→66.7(2)	100(3)→0(0)	100(3)→100(2)		
		No. 4-城崎（'95→'22）	48.6(18)→54.2(13)	40.0(8)→37.5(9)	0(0)→100(1)	28.6(2)→80.0(4)	66.7(2)→66.7(2)	73.7(14)→58.3(14)	16.7(2)→33.3(2)	47.1(8)→0(0)	50.0(2)→37.5(3)	71.4(5)→83.3(5)		
		No. 5-玉造（'08→'23）	69.2(9)→75.0(9)	90.9(10)→81.8(9)	0(0)→100(1)	100(3)→60.0(3)	100(1)→100(1)	45.8(11)→37.5(9)	60.0(3)→66.7(2)	66.7(2)→75.0(3)	66.7(6)→66.7(6)	33.3(2)→0(0)		
		No. 6-長門湯本（'01→'21）	36.4(4)→60.0(6)	50.0(2)→0(0)	0→0	該当なし	0→0	41.7(10)→50.0(9)	100(2)→100(4)	50.0(1)→0(0)	50.0(3)→66.7(4)	70.0(7)→50.0(2)		
		No. 8-湯原（'05→'23）	42.9(3)→60.0(3)	50.0(2)→50.0(2)	該当なし	該当なし	該当なし	53.8(14)→43.5(10)	0→0	100(1)→100(3)	50.0(3)→50.0(2)	80.0(4)→80.0(4)		
		No. 10-三朝（'02→'20）	83.3(5)→83.3(5)	33.3(1)→50.0(1)	0→0	該当なし	該当なし	0→0	0→0	100(1)→100(1)	該当なし	33.3(1)→50.0(1)		
	100～200m	No. 15-修善寺（'04→'22）	100(1)→100(2)	20.0(1)→42.9(3)	該当なし	100(1)→66.7(2)	該当なし	33.3(2)→16.7(1)	33.3(1)→0(0)	100(1)→100(1)	50.0(1)→0(0)	33.3(1)→50.0(1)		
		No. 16-湯村（'06→'20）	100(2)→100(1)	100(1)→100(2)	0(0)→100(1)	該当なし	該当なし	80.0(8)→71.4(5)	100(6)→100(6)	100(1)→100(3)	100(1)→100(2)	100(1)→100(1)		
		No. 1-銀山（'02→'23）	14.3(2)→10.0(1)	0(0)→40.0(2)	100(1)→100(1)	該当なし	33.3(1)→50.0(1)	33.3(2)→50.0(1)	0→0	50.0(2)→33.3(1)	0→0	0→0		
		No. 4-城崎（'95→'22）	32.4(12)→33.3(8)	35.0(7)→41.7(10)	0→0	71.4(5)→20.0(1)	0→0	15.8(3)→25.0(6)	75.0(9)→50.0(3)	41.2(7)→100(1)	50.0(2)→50.0(1)	28.6(2)→16.7(1)		
		No. 5-玉造（'08→'23）	15.4(2)→8.3(1)	0(0)→9.1(1)	0→0	0(0)→40.0(2)	0→0	37.5(9)→37.5(9)	40.0(2)→33.3(1)	0→0	22.2(2)→22.2(2)	0(0)→28.6(2)		
		No. 6-長門湯本（'01→'21）	45.8(5)→30.0(3)	50.0(2)→83.3(5)	0(0)→100(1)	該当なし	100(1)→100(1)	29.2(7)→33.3(6)	0→0	50.0(1)→0(0)	16.7(1)→16.7(1)	20.0(2)→50.0(2)		
	200m～	No. 8-湯原（'05→'23）	57.1(4)→40.0(2)	50.0(2)→50.0(2)	該当なし	該当なし	該当なし	30.8(8)→43.5(10)	60.0(3)→60.0(3)	0→0	50.0(3)→50.0(2)	20.0(1)→20.0(1)		
		No. 10-三朝（'02→'20）	16.7(1)→16.7(1)	0→0	0→0	該当なし	該当なし	0(0)→50.0(1)	100(1)→100(1)	0→0	該当なし	33.3(1)→50.0(1)		
		No. 15-修善寺（'04→'22）	0→0	80.0(4)→57.1(4)	該当なし	0(0)→33.3(1)	該当なし	16.7(1)→0(0)	66.7(2)→100(1)	0→0	50.0(1)→100(1)	66.7(2)→50.0(1)		
		No. 16-湯村（'06→'20）	0→0	0→0	0→0	該当なし	該当なし	20.0(2)→28.6(2)	0→0	0→0	0→0	0→0		
		No. 1-銀山（'02→'23）	0→0	0→0	0→0	該当なし	0→0	0→0	0→0	0→0	0→0	0→0		
		No. 4-城崎（'95→'22）	19.0(7)→12.5(3)	25.0(5)→20.8(5)	0→0	0→0	33.3(1)→33.3(1)	10.5(2)→16.7(4)	8.3(1)→16.7(1)	11.8(2)→0(0)	0(0)→12.5(1)	0→0		
②河川－建築物隣接型	0～100m	No. 5-玉造（'08→'23）	15.4(2)→16.7(2)	9.1(1)→9.1(1)	0→0	0→0	0→0	16.7(4)→25.0(6)	0→0	33.3(1)→25.0(1)	11.1(1)→11.1(1)	66.7(4)→71.4(5)		
		No. 6-長門湯本（'01→'21）	18.2(2)→10.0(1)	0(0)→16.7(1)	0→0	該当なし	0→0	29.2(7)→16.7(3)	0→0	0→0	33.3(2)→16.7(1)	10.0(1)→0(0)		
		No. 8-湯原（'05→'23）	0→0	0→0	該当なし	該当なし	該当なし	15.4(4)→13.0(3)	40.0(2)→40.0(2)	0→0	0→0	0→0		
		No. 10-三朝（'02→'20）	0→0	66.7(2)→50.0(1)	100(1)→100(1)	該当なし	該当なし	100(1)→50.0(1)	0→0	0→0	該当なし	33.3(1)→0(0)		
		No. 15-修善寺（'04→'22）	0→0	0→0	該当なし	0→0	該当なし	50.0(3)→83.3(5)	0→0	0→0	0→0	0→0		
		No. 16-湯村（'06→'20）	0→0	0→0	0→0	該当なし	該当なし	0→0	0→0	0→0	0→0	0→0		
	100～200m	No. 1-銀山（'02→'23）	0→0	0→0	該当なし	該当なし	該当なし	100(1)→50.0(1)	該当なし	該当なし	33.3(1)→33.3(1)	0→0		
		No. 4-城崎（'95→'22）	44.4(4)→33.3(1)	25.0(1)→0(0)	該当なし	100(1)→100(3)	該当なし	0(0)→16.7(1)	100(1)→0(0)	100(1)→0(0)	0(0)→50.0(1)	0(0)→50.0(1)		
		No. 6-長門湯本（'01→'21）	50.0(1)→100(1)	0(0)→100(1)	100(1)→100(1)	該当なし	該当なし	64.3(9)→66.7(6)	100(1)→100(1)	該当なし	40.0(2)→66.7(2)	14.3(1)→42.9(3)		
		No. 8-湯原（'05→'23）	88.9(8)→83.3(5)	100(3)→100(3)	0(0)→100(1)	100(1)→100(1)	該当なし	14.8(4)→15.0(3)	33.3(1)→0(0)	0→0	37.5(3)→60.0(2)	0(0)→33.3(1)		
		No. 10-三朝（'02→'20）	0→0	100(4)→66.7(2)	該当なし	0(0)→100(1)	該当なし	16.7(1)→20.0(1)	66.7(2)→100(2)	100(2)→0(0)	70.0(7)→66.7(6)	0→0		
		No. 15-修善寺（'04→'22）	20.0(2)→28.6(2)	27.3(3)→25.0(3)	33.3(1)→50.0(1)	0→0	該当なし	3.7(1)→4.5(1)	50.0(1)→33.3(1)	14.3(1)→0(0)	14.3(1)→33.3(1)	42.3(3)→33.3(3)		
	200m～	No. 16-湯村（'06→'20）	75.0(3)→75.0(3)	75.0(3)→75.0(3)	100(1)→100(2)	該当なし	該当なし	32.3(20)→39.6(21)	50.0(3)→50.0(3)	83.3(5)→75.0(3)	45.5(5)→33.3(2)	50.0(2)→25.0(1)		
		No. 1-銀山（'02→'23）	50.0(1)→50.0(1)	100(1)→100(1)	該当なし	該当なし	該当なし	0(0)→50.0(1)	該当なし	該当なし	66.7(2)→66.7(2)	0(0)→50.0(1)		
		No. 4-城崎（'95→'22）	33.3(2)→66.7(2)	75.0(3)→66.7(2)	該当なし	0→0	該当なし	0(0)→33.3(3)	0→0	0(0)→100(1)	100(3)→50.0(1)	100(2)→50.0(1)		
		No. 6-長門湯本（'01→'21）	0→0	0→0	0→0	該当なし	該当なし	21.4(3)→11.1(1)	0→0	該当なし	60.0(3)→33.3(1)	28.6(2)→28.6(2)		
		No. 8-湯原（'05→'23）	11.1(1)→16.7(1)	0→0	0→0	0→0	該当なし	18.5(5)→10.0(2)	33.3(1)→0(0)	100(1)→100(1)	0(0)→25.0(1)	33.3(1)→33.3(1)		
		No. 10-三朝（'02→'20）	100(4)→100(3)	0(0)→33.3(1)	該当なし	0→0	該当なし	50.0(3)→40.0(2)	33.3(1)→0(0)	0→0	0(0)→11.1(1)	0(0)→100(1)		
	200m～	No. 15-修善寺（'04→'22）	20.0(2)→14.3(1)	18.2(2)→16.7(2)	0→0	0(0)→100(1)	該当なし	7.4(2)→9.1(2)	0(0)→33.3(1)	42.3(3)→0(0)	0→0	14.3(1)→33.3(3)		
		No. 1-銀山（'02→'23）	25.0(1)→25.0(1)	0→0	0→0	該当なし	該当なし	40.3(25)→35.8(19)	16.7(1)→33.3(2)	16.7(1)→25.0(1)	27.3(3)→60.0(3)	50.0(2)→50.0(2)		
		No. 4-城崎（'95→'22）	22.2(2)→0(0)	0(0)→33.3(1)	該当なし	0→0	該当なし	100(2)→50.0(3)	0→0	0→0	0→0	0→0		
		No. 6-長門湯本（'01→'21）	50.0(1)→0(0)	0→0	0→0	該当なし	該当なし	14.3(2)→22.2(2)	0→0	該当なし	0→0	57.1(4)→28.6(2)		
		No. 8-湯原（'05→'23）	0→0	0→0	0→0	該当なし	該当なし	66.7(18)→75.0(15)	33.3(1)→100(1)	0→0	62.5(5)→25.0(1)	66.7(2)→33.3(1)		
		No. 10-三朝（'02→'20）	0→0	0→0	該当なし	0→0	該当なし	33.3(3)→40.0(2)	0→0	0→0	30.0(3)→22.2(2)	100(1)→0(0)		
	200m～	No. 15-修善寺（'04→'22）	60.0(6)→57.1(4)	54.5(6)→58.3(7)	66.7(2)→50.0(1)	0→0	該当なし	88.9(24)→86.4(19)	50.0(1)→33.3(1)	42.3(3)→100(2)	85.7(6)→66.7(2)	42.3(3)→33.3(3)		
		No. 16-湯村（'06→'20）	0→0	25.0(1)→25.0(1)	0→0	該当なし	該当なし	27.4(17)→24.5(13)	33.3(2)→16.7(1)	0→0	27.3(3)→16.7(1)	0(0)→25.0(1)		

※水辺建築物の用途の（ ）は軒数を示す。赤で塗りつぶしたものは割合の増加、青で塗りつぶしたものは割合の減少を表している。

らかにするため、各温泉街における 2000 年前後と最新のゼンリン住宅地図を用いて^{注 3)}、各温泉街における水辺建築物の用途別軒数の変化から、温泉体験施設を中心とした半径 100m 単位の同心円状の範囲を設定し、各距離範囲に含まれる水辺建築物の用途別構成比の変化を算出し、比較・分析を行う（表 2、図 3）。

①河川―道路隣接型：

水辺建築物のファサード側が道路を挟んで河川に面し、歩行者や建築物の内部からも水辺を体感できる機会が多く、飲食店が増加している傾向があり、食べ歩きなど観光客のニーズに応えるように水辺建築物の用途が変化している。また、公園や広場も街歩きなどの際の滞留拠点として活用されるため、増加傾向がみられる。温泉体験施設と水辺建築物の配置関係に関しては、温泉体験施設が河川沿いに整備されるケースが多く、宿泊施設に関しては、多くの温泉街で全体的な軒数自体は減少傾向にあるが、「0～100m」の範囲での構成比は増加しており、「100～200m」で減少している。一方で、住宅の構成比は減少しており、「0～100m」で顕著である。また、これらの宿泊施設や住宅として使われていた建築物の飲食店への転用が進んだことで（表 3）、多少ではあるが「100～200m」の範囲では多くの温泉街で飲食店の構成比・軒数ともに増加しており、軒数に関しては減少がみられない。このように、温泉体験施設の整備が周辺の観光地化と用途転用を促していることがわかる。

この類型においては、温泉体験施設を中心とした空間整備が行われたことに加え、長門湯本温泉および玉造温泉では¹⁰⁾¹¹⁾、歩車共存道路としての歩道空間の拡幅や、歩行者専用道路・車両の一方通行化といった道路利用方法の見直しが行われ、観光客が河川沿いを歩きやすくする工夫がなされている。さらに、河川上への飛び石の設置や、橋へのオブジェ・レリーフ装飾を施すなどにより、河川の兩岸を回遊しやすい構造とする整備も行われた。その結果、水辺建築物の利用形態に変化がみられ、観光地としての機能が向上していることが特徴である。

②河川―建築物隣接型：

河川と水辺建築物の間に道路を介さず、水辺建築物の裏側に直接河川が面しているため、歩行者が水辺を体感する機会は限定的である。そのため、河川に対して開けた公園内や広場内に温泉体験施設を整備しているケースもいくつか確認でき、観光客の滞留拠点として活用されている。この類型の水辺建築物が多く集積する No. 15-修善寺温泉や No. 16-湯村温泉では、公園や広場が「0～100m」に配置され、局所的な賑わいを形成している。飲食店に関しては「0～100m」で 3 カ所、「100～200m」で 2 カ所の温泉街で構成比が減少しており、「200m～」では構成比が増加している温泉街が 2 カ所みられ、多少ではあるものの、温泉体験施設周辺だけに集中するのではなく、温泉街全体に分散する傾向が読み取れる。また、住宅に関しては「0～100m」で構成比が増加傾向にあり、これは「①河川―道路隣接型」とは対照的に、大幅な観光地化が進行するのではなく、観光と生活が一定のバランスで共存していることを示している。

この類型においては、温泉体験施設を中心とする動線が比較的確確である一方で、温泉街全体としては単一的な拠点への集中にとどまらず、周辺へと緩やかに広がる構造が特徴である。

4. 水辺飲食店と水辺空間の関係性

4.1 水辺飲食店の概要

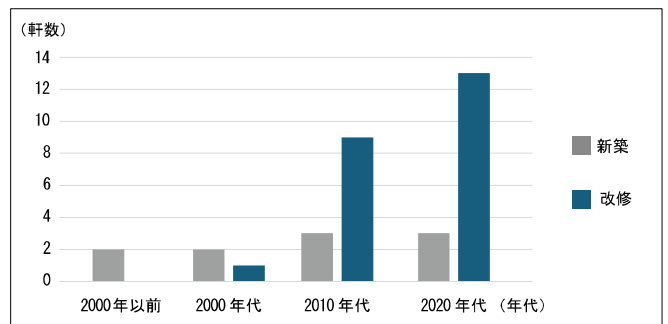


図 4 20 カ所の温泉街における水辺飲食店の新築・改修

研究対象とする 20 カ所の温泉街では、客席から河川を見渡すことのできる水辺飲食店は 33 店舗^{注 8)} 存在し、新築・改修された年代をもとに分類すると、2010 年以降に新築・改修された水辺飲食店が全体の約 85%（全 33 店舗中 28 店舗）を占めることが分かった（図 4）。そこで本研究では、代表事例として取り上げる 8 カ所の温泉街に位置する 2010 年以降に新築または改修された水辺飲食店 21 店舗を対象とし、立地特性や設計上の工夫、水辺空間との関係性について明らかにする（表 3）。

対象とする水辺飲食店の内訳としては、カフェが大半を占めており、開店契機としては改修が多いが、新築の物件もいくつかみられる。改修物件の以前の用途としては飲食店や住宅が多く、飲食店の階数に関しては、2 階建ての建築物が多くみられ、河川の水面が低く、前面道路があることによって河川が 1 階部分から見えにくい No. 1-銀山温泉や No. 4-城崎温泉などでは、2 階に客席を設置している水辺飲食店が特に多くみられる。

4.2 水辺飲食店の類型化

対象とする水辺飲食店 21 店舗のうち、客席と水辺の関係から、a. 1 階大開口型、b. 2 階大開口型、c. テラス型、d. 仮設型の 4 タイプに類型化を行い、各店舗へのヒアリング調査と実測調査^{注 4)} をもとに客席部分の平面プランを作成し、特徴について整理する（図 5、図 6）。

a. 1 階大開口型と b. 2 階大開口型は、温泉街を流れる河川に沿って開口を大きく設置し、河川側に客席を設置している飲食店が該当する。また、c. テラス型は、店舗の屋外にウッドデッキやテラスなどが整備されたうえで客席を設置している飲食店が該当する。d. 仮設型は、店舗の前面道路や橋を活用して客席を仮設的に設置している飲食店が該当する。

これら水辺飲食店の客席と水辺の関係性による類型を水辺空間の空間構成による類型と照らし合わせて、各類型による特徴をみていく。

a. 1 階大開口型（8 店舗）：

「②河川―建築物隣接型」の飲食店に多くみられ、店舗入り口と反対側に河川が流れているため、店舗の奥に河川を見渡せる客席を設置することができ、特に 1 階の客席からは河川との距離も近く、高い親水性の確保が可能である。店舗 No. 18 の飲食店では、河川側に設けられた多くの小さな開口を改修の際に 2 つの大きな FIX 窓に変更することで、河川の景観を室内に取り込むことができ、窓前面にはソファ席を設置するなど、座席配置も工夫されている（写真 4-①）。また、店舗 No. 20 の飲食店では、大判焼き屋として使われていた建築物を改修し、改修前に和室として使われていた河川側のカフェスペースには大開口が設置されている。改修を行う際に、河川側の開口に向けて天井を傾斜させることで視線が河川へと抜けるように設計され（写真

5-①)、窓のアルミサッシ部分には木の格子をはめて2重窓とすることで、店内から見える景色と室内の環境において、デザインと実用性を共に満たす工夫がされている(写真4-②)。一方、「**①河川—道路隣接型**」であるNo.12の飲食店では、以前の建築物を改修して河川側に大きな開口を新たに設置することで、店内では温泉街や河川の風景を取り入れられることに加え、河川沿いの道路で街歩きをする観光客が店内の様子を見ることもできるため、集客の工夫にもなっている。

b. 2階大開口型(9店舗)：

「**①河川—道路隣接型**」の飲食店では、建築物のファサード側に道路が整備されているため、1階の河川側の空間は店舗の入り口と重なることに加え、店内から河川が見えにくい特徴がある。そのため、2階の河川側に客席を設置することで河川の景観を取り入れることができ、人の出入りも無く落ち着いた空間を実現している。店舗No.1の飲食店では、「**①河川—道路隣接型**」の配置であることに加え、河川の水面が低いため、1階の店内の客席からは河川が見えにくい。そのため、住居として使用していた2階部分の河川側にある廊下を改修

し、廊下幅を半間広げて仮壁を建てることで空間を確保し、開口を広く設けた客席を設置した。これにより、河川と木造建築物が多く残る温泉街の景観を客席へと取り込むことが可能となっている(写真4-③)。また、店舗No.5の飲食店では、間口が狭く奥行きが深い建築物の形状や「**①河川—道路隣接型**」の配置であるため、2階を活用して河川側に大開口を設けたカウンター席を設置することにより、人の出入りが無いため、河川への眺望と落ち着いた空間の両方を実現できるように工夫がされている(写真4-④)。一方、「**②河川—建築物隣接型**」であるNo.21の飲食店では、河川側の開口を出窓にすることで、2階からでも河川景観が望みやすいように工夫され、河川がすぐそばに流れていることを活かした設計になっている。

c. テラス型(7店舗)：

「**①河川—道路隣接型**」の飲食店では、店舗前に設置されたテラスから河川が見渡せ、温泉街の景観も直接取り入れることが可能である。また、河川沿いの道路と接続しているため、食歩きや散策などの観光客が入りやすく、滞留拠点としての役割も見いだせる。一方、「**②**

表3 8カ所の温泉街における水辺飲食店の特徴

配置 類型	店舗 番号	温泉街名	店舗名	飲食店の内訳	店舗階(階数)	開店契機	年代	以前の用途	飲食店類型			
									a. 1階大開口型	b. 2階大開口型	c. テラス型	d. 仮設型
①河川—道路隣接型	1	No.1-銀山温泉	S	カフェ	1,2階(2階建て)	改修	2010年代	住宅		●	●	
	2		SI	レストラン	1,2階(2階建て)	改修	2010年代	飲食店		●		●
	3		I	蕎麦屋	2階(2階建て)	改修	2010年代	住宅		●		●
	4	No.4-城崎温泉	M	レストラン	1,2階(2階建て)	改修	2020年代	飲食店		●		
	5		C	カフェ	1,2階(2階建て)	新築	2010年代	飲食店		●		
	6		CH	カフェ	1,2階(2階建て)	新築	2010年代	空き地		●		
	7	No.5-玉造温泉	MA	カフェ	2階(2階建て)	改修	2010年代	宿泊施設		●		
	8		Y	カフェ	1階(1階建て)	改修	2010年代	飲食店			●	
	9		SA	焼き鳥店	1階(1階建て)	改修	2020年代	飲食店			●	
	10	No.6-長門湯本温泉	TB	カフェ・バー	2階(2階建て)	改修	2020年代	住宅		●	●	
	11		A	カフェ	1階(1階建て)	新築	2020年代	宿泊施設				●
	12		TA	カフェ・レストラン	1階(4階建て)	改修	2020年代	宿泊施設	●		●	
	13	No.8-湯原温泉	HW	スイーツ店	1階(2階建て)	新築	2020年代	飲食店			●	
②河川—建築物隣接型	14	No.1-銀山温泉	T	蕎麦屋	1階(2階建て)	改修	2020年代	飲食店兼宿泊施設	●			
	15	No.4-城崎温泉	P	洋菓子店	1階(3階建て)	改修	2020年代	住宅	●			●
	16		O	レストラン	1階(2階建て)	改修	2010年代	飲食店	●			●
	17	No.6-長門湯本温泉	CA	カフェ	1階(2階建て)	改修	2010年代	住宅	●		●	
	18	No.10-三朝温泉	MI	ヨーグルト屋	1階(3階建て)	改修	2020年代	その他(ちぎり絵)	●			
	19	No.15-修善寺温泉	D	蕎麦屋	1階(2階建て)	改修	2020年代	飲食店	●			
	20	No.16-湯村温泉	R	カフェ・蕎麦屋	1階(3階建て)	改修	2020年代	飲食店	●			
	21		CB	カフェ	1,2階(2階建て)	改修	2020年代	不明(空き家)		●		

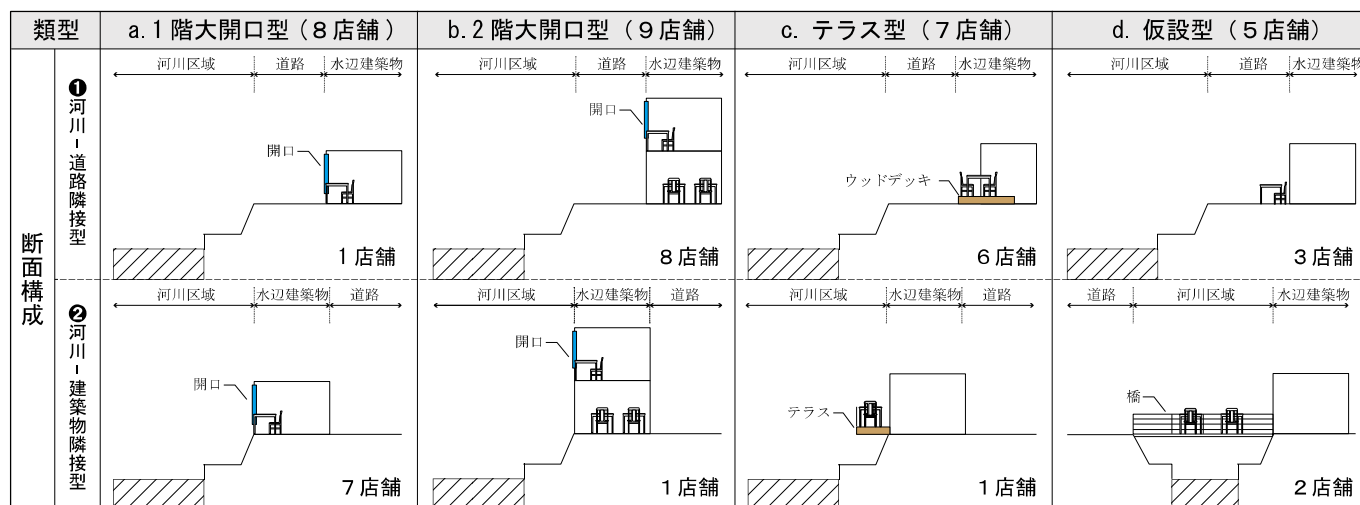


図5 客席と水辺の関係性による類型化

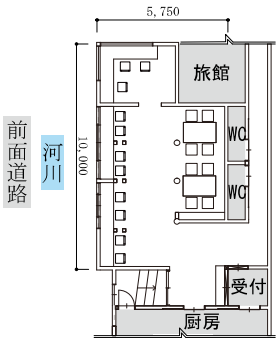
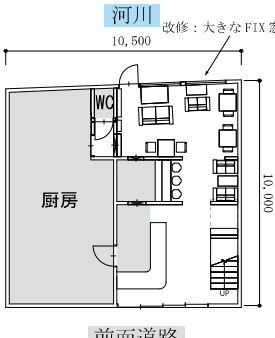
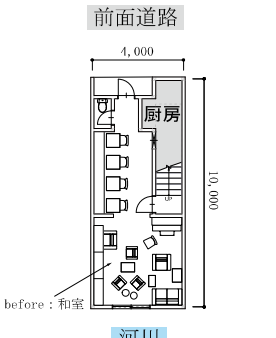
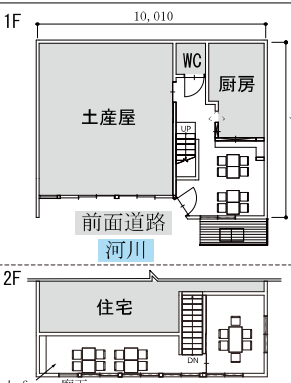
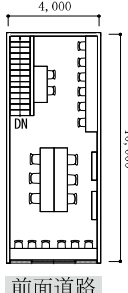
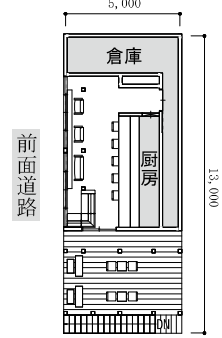
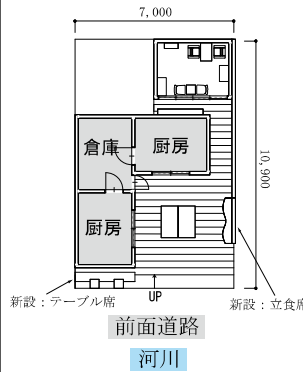
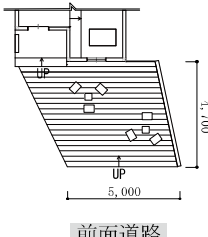
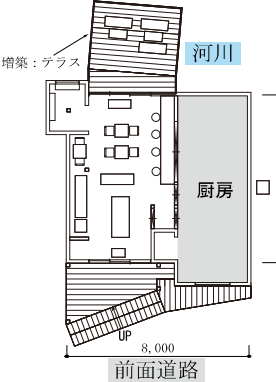
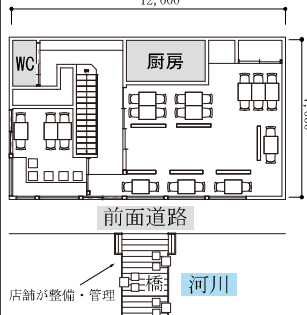
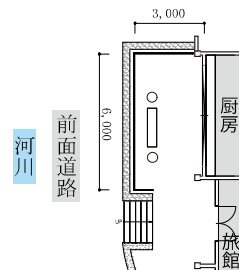
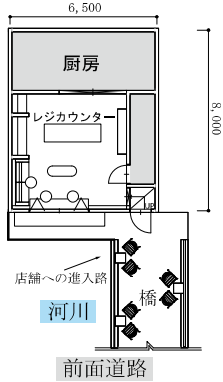
類型	a. 1 階大開口型			b. 2 階大開口型
店舗番号	店舗 No. 14	店舗 No. 18	店舗 No. 20	店舗 No. 1
温泉街名	No. 1- 銀山温泉	No. 10- 三朝温泉	No. 16- 湯村温泉	No. 1- 銀山温泉
配置類型	②河川－建築物隣接型	②河川－建築物隣接型	②河川－建築物隣接型	①河川－道路隣接型
店舗階	1 階 (2 階建て)	1 階 (3 階建て)	1 階 (3 階建て)	1.2 階 (2 階建て)
開店契機	改修	改修	改修	改修
平面プラン				
類型	b. 2 階大開口型		c. テラス型	
店舗番号	店舗 No. 5	店舗 No. 10	店舗 No. 8	店舗 No. 9
温泉街名	No. 4- 城崎温泉	No. 6- 長門湯本温泉	No. 5- 玉造温泉	No. 6- 長門湯本温泉
配置類型	①河川－道路隣接型	①河川－道路隣接型	①河川－道路隣接型	①河川－道路隣接型
店舗階	1.2 階 (2 階建て)	2 階 (2 階建て)	1 階 (1 階建て)	1 階 (1 階建て)
開店契機	新築	改修	改修	改修
平面プラン				
類型	c. テラス型		d. 仮設型	
店舗番号	店舗 No. 17	店舗 No. 3	店舗 No. 11	店舗 No. 15
温泉街名	No. 6- 長門湯本温泉	No. 1- 銀山温泉	No. 6- 長門湯本温泉	No. 4- 城崎温泉
配置類型	②河川－建築物隣接型	①河川－道路隣接型	①河川－道路隣接型	②河川－建築物隣接型
店舗階	1 階 (2 階建て)	2 階 (2 階建て)	1 階 (1 階建て)	1 階 (3 階建て)
開店契機	改修	改修	新築	改修
平面プラン				

図 6 水辺飲食店における類型別の代表事例

※No. 20 は 2024 年 10 月、No. 18 は 2024 年 11 月、No. 5、8、15 は 2024 年 12 月、No. 1、3、9、10、11、14、17 は 2025 年 5 月に実測調査を実施した。
 ※店舗 No. 1 については平面図の提供あり。

河川―建築物隣接型」の飲食店では、河川区域内にテラスが設置されるため親水性の高い空間が可能となるが、河川の占用許可が必要であるので制限も多いなどの特徴がある。店舗 No. 8 の飲食店では、以前も飲食店として使われていたが、河川側に向けたテーブル席や立食用のテーブルをテラス部分に新設したことで、水辺空間との関係がより密接になるよう工夫されている（写真 5-②）。この飲食店では、テラス部分を期間限定でクレープ販売や洋服販売などの出張販売へ貸し出しがされており、観光客から地元住民まで多様な人々が集まるように活用されていた（写真 4-⑤）。また、店舗 No. 17 の飲食店は「②河川―建築物隣接型」であり、住宅の 1 階部分を改修して河川側に大きな開口を設け、河川区域内に張り出したテラスを増築している（写真 5-③）。これは、長門湯本温泉を流れる音信川が 2018 年に温泉街の再生事業をするタイミングで特区として指定されたことで、特例措置的に河川の占有許可を得ることで、テラスを設置することが可能となっている^{注 9)}。このテラスは温泉街内に点在する川床の一種として整備されたもので、対象温泉街の中でも唯一河川区域内に張り出す形で店舗に設置され、河川景観を取り入れた温泉街の再整備において、水辺飲食店における水辺空間の活用の足掛かりとなっている（写真 4-⑥）。

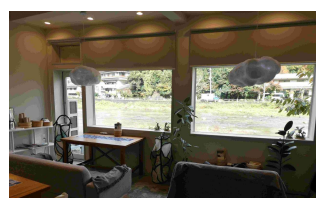
d. 仮設型（5 店舗）：

「①河川―道路隣接型」の飲食店では、河川側の建築物前面の道路に客席を設置するケースが多くみられ、建築物前面のスペースが限られている「①河川―道路隣接型」の一部飲食店や「②河川―建築物隣接型」の飲食店では、店舗への進入路として使われている橋や店舗が管理を行う橋を活用して客席が設置されている（写真 5-④）。店舗 No. 3 の飲食店では、店内は古民家を改修しており、店舗が管理する橋において仮設的な客席を設置し、河川と水辺建築物との景観を感じることができるような工夫がみられる。No. 1-銀山温泉の橋に関しては、石橋は県道として整備されているが、木製の橋の多くは橋の前にある店舗が河川の占用許可を取り、整備・管理を行っている。そのため、橋に客席を仮設的に設置することに加えて、橋自体に常設のベンチを取り付けるような工夫もみられる（写真 4-⑦、写真 5-⑤）。また、店舗 No. 15 の飲食店では、住宅であった 1 階部分を改修し、河川沿いの桜並木を活かして店舗へ入る橋に客席を仮設的に設置することで、河川や周辺の風景を取り込む工夫がされている。また、この橋に関しては進入路として個人が設置したものであり、橋の建設の際に河川占用に関する申請は必要となるが、橋上の客席の設置については自治体への許可は必要なく^{注 10)}、橋の手すりを活用して取り外し可能なテーブルを取り付けている（写真 4-⑧、写真 5-⑥）。

5. おわりに

本研究では、温泉街における水辺空間の空間構成と水辺建築物との関係性に着目し、水辺空間について「①河川―道路隣接型」と「②河川―建築物隣接型」の 2 タイプに類型化を行い整理することで、水辺空間の空間構成や水辺建築物における用途の変遷、水辺飲食店における客席と水辺の関係性について調査・分析を行った。

水辺空間の空間構成と水辺建築物における用途の変遷においては、近年の旅行形態や温泉街の空間構成による類型に応じた変化が推察される。特に、温泉体験施設を中心とした空間整備が水辺空間に新たな滞留拠点を生み出し、それに伴って周辺の水辺建築物の用途や観光客の動線にも影響を及ぼしていることが窺える。今後、河川を有する



①店舗 No. 18（No. 10-三朝温泉）

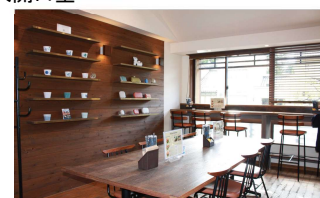


②店舗 No. 20（No. 16-湯村温泉）

a. 1 階大開口型



③店舗 No. 1（No. 1-銀山温泉）



④店舗 No. 5（No. 4-城崎温泉）

b. 2 階大開口型



⑤店舗 No. 8（No. 5-玉造温泉）



⑥店舗 No. 17（No. 6-長門湯本温泉）

c. テラス型



⑦店舗 No. 3（No. 1-銀山温泉）



⑧店舗 No. 15（No. 4-城崎温泉）

d. 仮設型

写真 4 代表事例の飲食スペース

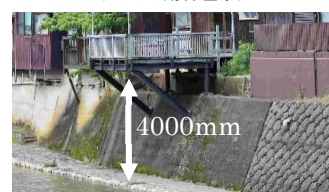
※筆者撮影（①2024 年 11 月、②2024 年 10 月、③⑥⑦2025 年 5 月、④⑤⑧2024 年 12 月）。



①河川に向けて傾斜する天井
（No. 16-湯村温泉）



②立食テーブル
（No. 5-玉造温泉）



③河川区域内に張り出すテラス
（No. 6-長門湯本温泉）



④店舗が管理する橋
（No. 1-銀山温泉）



⑤橋の上の常設ベンチ
（No. 1-銀山温泉）



⑥仮設テーブル
（No. 4-城崎温泉）

写真 5 水辺飲食店における工夫

※筆者撮影（①2024 年 10 月、②⑥2024 年 12 月、③④⑤2025 年 5 月）。

温泉街の活性化を進めるにあたっては、水辺空間と温泉体験施設を一体的に捉えた空間づくりを推進することが重要であると考えられる。

水辺空間の屋外整備においては、温泉体験施設を含む屋外公共空間の整備が行われているが、その配置には類型ごとに特徴的な違いがみられた。「①河川－道路隣接型」に属する水辺建築物が多く占める温泉街では、河川沿いの道路を活かして線的に滞留拠点が形成され、「②河川－建築物隣接型」に属する水辺建築物が多く占める温泉街では、河川沿いの公園・広場内を活用することで点的に滞留拠点が形成されていることがわかった。

水辺飲食店に関しては、水辺空間との関係性に着目し、水辺建築物に関する2タイプの類型に加え、客席と水辺の関係に関する4タイプの類型をもとに、工夫や特徴について明らかにした。「①河川－道路隣接型」の水辺飲食店では、建築物のファサード側に道路が存在するため「b.2階大開口型」が多く採用されたと考えられ、2階部分を活用して河川の眺望を確保する設計や客席配置が確認できた。また、河川沿いの回遊性のある道路が店舗に直接接続していることから、通行者が立ち寄りやすく、屋外空間を活用しやすい立地特性を有しており、「c.テラス型」も多く採用されたと考えられる。これらのテラスは飲食空間としての役割に加え、一部を他店舗や異業種に貸し出す事例も確認され、観光客から地元住民まで多様な人々が集う空間となっており、滞留や交流を促す場として機能していることが窺える。一方、「②河川－建築物隣接型」の水辺飲食店では、河川に直接面しているため、1階からでも十分な眺望が得られる立地特性を活かし、「a.1階大開口型」が多く採用されたと考えられ、河川に近接した親水性の高い空間が形成されていた。また「d.仮設型」の店舗では、店舗前の橋の上に客席を設けることで、周囲の自然環境との一体感を演出するなどの工夫がみられた。

このように、水辺空間を活用した温泉体験施設等の屋外公共空間の整備や、水辺飲食店の新築・改修における客席と水辺との関係を意識した設計上の工夫は、個々の観光拠点として機能するだけでなく、各地域特有の景観を形成し、温泉街全体にとって観光客の滞在や回遊を促す上で大きな効果を発揮すると考えられる。結果として、温泉街における観光体験の質を高めるとともに、今後は観光客の滞在時間の延長や、訪問目的の多様化にも寄与し、温泉街全体の活性化へと繋がっていくことが期待される。

謝辞

ヒアリング調査およびアンケート調査、実測調査にご協力いただいた関係者の皆様にお世話になった。ここに記して感謝申し上げる。

参考文献

- 1) Kiriko Yamada, Hitoshi Miyazaki: A study on town planning from the viewpoint of regional characteristics in hot spring area -Trend of regional characteristics from the viewpoint of geographical condition and process of formation-. Journal of Architecture and Planning, Vol.73, No.626, pp.819-826, 2008 (in Japanese)
山田桐子、宮崎均：温泉街における地域特性からみたまちづくりに関する研究-地理的条件ならびに形成過程からみた地域特性の傾向-、日本建築学会計画系論文集、第73巻、第626号、pp.819-826、2008、4
(DOI: <https://doi.org/10.3130/aija.73.819>)
- 2) Yuriko Tsuda, Toshiyuki Minetoma, Akira Soshiroda, Takashi Tsutsumi: A study on the townscape policy in traditional hot spring towns. Journal of the City Planning of Japan, pp.51-56, No.45-1, 2010 (in Japanese)

- 津田夕梨子、峯吉俊之、十代田朗、津々見崇：伝統的温泉街における景観への取り組みに関する研究、都市計画論文集、pp.51-56, No.45-1, 2010、4
(DOI: <https://doi.org/10.11361/journalcpj.45.1.51>)
- 3) Noriko Matsuda, Osamu Oba: The formation processes of the modern spa town, with the location of hot-springs-developments and the location tendency of the hotel (Ryokan) town area. Journal of Architecture and Planning, No.582, pp.153-159, 2004 (in Japanese)
松田法子、大場修：泉源開発と旅館街の立地傾向にみる近代大規模温泉町の成立過程-別府温泉を事例として-、日本建築学会計画系論文集、第582号、pp.153-159、2004、8
(DOI: https://doi.org/10.3130/aija.69.153_2)
 - 4) Shunsuke Nakamura: The space structure of the hot-spring town of Arima in Edo period -Study of the spatial structure and community of "Arima 20-bo"-, Journal of Architecture and Planning, Vol.86, No.780, pp.657-664, 2021 (in Japanese)
中村駿介：近世有馬温泉町の空間構造-有馬二十坊の社会的・空間的特徴について-、日本建築学会計画系論文集、第86巻、第780号、pp.657-664、2021、2
(DOI: <https://doi.org/10.3130/aija.86.657>)
 - 5) Satoshi Kasama, Yasuaki Matsuda: Analysis of "patterns" in outdoor public spaces that contribute to enhancing the appeal of hot spring area-type tourist destination, Papers of Research Meeting on Civil Engineering Planning, No.12, pp.82-90, 2016 (in Japanese)
空間聡、松田泰明：温泉街型観光地の魅力向上に寄与する屋外公共空間の「パターン」に関する分析、土木学会景観・デザイン研究講演集、No.12、pp.82-90、2016、12
 - 6) Hirotomo Nishikawa, Michio Okamatsu, Junhwan Song: Study about way of creative attraction in hot spring resorts that features valley topography. Proceedings of annual research meeting Chugoku Chapter, Architectural Institute of Japan, pp.569-572, 2020 (in Japanese)
西川裕知、岡松道雄、宋俊煥：谷あい地形の温泉街における魅力づくりについて-長門湯本温泉を事例として-、日本建築学会中国支部研究報告集、pp.569-572、2020、2
 - 7) Takuya Matsumoto, Ryo Inoue: Spatial Composition and Utilization of Waterfront Space in Hot Spring Resort Areas. Proceedings of annual research meeting Chugoku Chapter, Architectural Institute of Japan, pp.646-649, 2024 (in Japanese)
松本卓也、井上亮：温泉街における水辺空間の空間構成および利活用実態、日本建築学会中国支部研究報告集、pp.646-649、2024、3
(DOI: https://doi.org/10.60442/aijchugoku.47.0_646)
 - 8) Takuya Matsumoto, Ryo Inoue: Utilization of Waterside Space in Hot Spring Area and its Relationship with Surrounding Buildings, The 14th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia (ISAIA 2024), 2024、9
 - 9) Takuya Matsumoto, Ryo Inoue: Relationship of outdoor public spaces and waterside restaurant in hot spring areas to rivers. Proceedings of annual research meeting Chugoku Chapter, Architectural Institute of Japan, pp.735-738, 2025 (in Japanese)
松本卓也、井上亮：温泉街における屋外公共空間および水辺飲食店の河川との関係性、日本建築学会中国支部研究報告集、pp.735-738、2025、3
(DOI: https://doi.org/10.60442/aijchugoku.48.0_735)
 - 10) Takeshi Hiraoka: Creating sozoroaruki opportunities through city road improvements at hot spring of Nagatoyumoto - Chiikinotakara, chiikinochikarade yunobe-shon -, The Monthly "Construction", pp.59-61, 2023 (in Japanese)
平岡武：長門湯本温泉 市道整備によるそぞろ歩きの演出 -地域のタカラ、地域のチカラで湯のバージョン-、月刊「建設」、pp.59-61、2023、2
 - 11) Kiyotaka Wakuri: Japan's oldest hot spring, Tamatsukuri hot spring - The challenge of revitalizing the hot spring area's liveliness -, Journal of the City Planning Institute of Japan (60), vol.62, No.11, pp.73-76, 2008 (in Japanese)
和久利清孝：日本最古の温泉 玉造温泉-温泉街の賑わい再生に向けての挑戦-、第60回都市計画学会全国大会、vol.62, No.11, pp.73-76、2008

注

注1) 参考文献1)の中で、数値的な基準としては宿泊施設が15ヵ所以上、収容

定員数 1,000 人以上と設定し、①温泉街を形成していないと判断できるものや②小さい温泉が広範囲に点在して温泉郷を形成しているものは調査対象から除くと定義されている。

注 2) 105 カ所の温泉街の市町村・活動組織に対して送り、99 カ所の温泉街から回答を得た。回答率は 94.2%だった。

注 3) ゼンリン住宅地図の年代については、2000 年前後および最新の年代について比較した。銀山温泉（2002 年・2023 年）、城崎温泉（1995 年・2022 年）、玉造温泉（2008 年・2023 年）、長門湯本温泉（2001 年・2021 年）、湯原温泉（2005 年・2023 年）、三朝温泉（2002 年・2020 年）、修善寺温泉（2004 年・2022 年）、湯村温泉（2006 年・2020 年）のゼンリン住宅地図を使用した。

注 4) 銀山温泉（2025 年 5 月 30～31 日）、城崎温泉（2024 年 12 月 23 日）、玉造温泉（2023 年 7 月 18 日、8 月 25 日、12 月 2 日、2024 年 12 月 20 日）、長門湯本温泉（2025 年 5 月 16～17 日）、湯原温泉（2023 年 9 月 6 日）、三朝温泉（2024 年 11 月 19 日）、湯村温泉（2024 年 10 月 16 日）の現地調査を行い、自治体や観光協会、飲食店へのヒアリング調査、飲食店への実測調査を実施した。

注 5) 温泉体験施設とは、各地域の温泉資源を活用して実際に温泉を体験できる屋外公共空間である足湯、手湯、飲泉所、露天風呂を指す。

注 6) 温泉街における水辺空間の整備では、「まちづくり交付金」、「地方創生拠点整備交付金」などの補助金が主に活用されていた。

注 7) 表 2 に記載されている割合は、各温泉街の類型ごとの水辺建築物において、温泉体験施設から各範囲内に位置する用途ごとの軒数が、その用途の軒数全体に占める割合のこととする。

注 8) 客席を設置していないテイクアウト専門店に関しては対象外とする。

注 9) 山口県長門湯本市役所建設部都市建設課、長門土木建築事務所へのヒアリング調査より。

注 10) 兵庫県豊岡市役所都市整備部建設課へのヒアリング調査より。

（2025 年 7 月 9 日原稿受理、2025 年 11 月 21 日採用決定）